

毛呂山町立小・中学校編成計画（案）に対するパブリックコメントの意見の概要と町の考え方

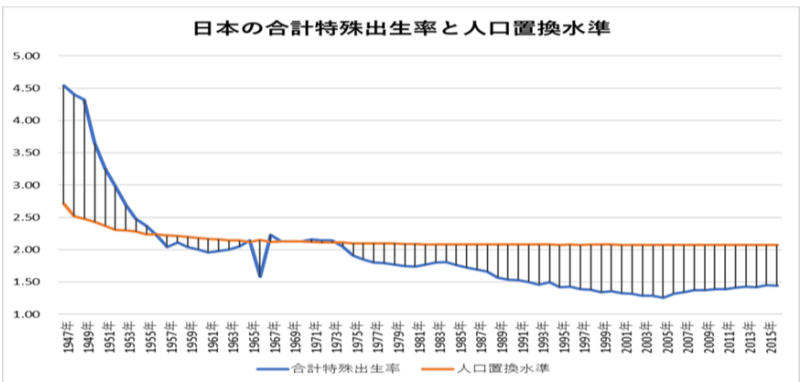
■意見件数

17件（17件を分類ごとに分けさせていただいております。そのため一人の意見が何分類かに分かれている場合があります。）

■意見及び回答(意見の中でいかなる内容であっても個人が特定できる部分については修正させていただいております。)

分類	意見	町の考え方
説明会等について	<p>毛呂山町立小・中学校編成計画（案）に対して今現在反対です。本来生徒中心に考えるべきであり、そのことについて何も語られていません。又、計画案が先行して今現在の学校教育に対してのデメリット、メリット等のごく語られていません。これでは、賛成か反対の意見が決まらず町民としては毛呂山町教育委員会に再度本来のあるべき姿と現在の教育姿・編成案との比較をしていただき編成案が最良と考える過程をのべていただきたいです。また、時間的余裕がありますので結論ありきではなく生徒・教師・町民等の賛同を頂ける案へと導き出す方法を考えていただきたいです。</p> <p>毛呂山町立小・中学校編成計画案に反対します。 今のままの状況でそれぞれの学校の内容を充実させる為に力を使ってください。説明会での説明には、納得できない部分が多い。現実を把握しての話だとは思えない。本当に住民や子供たちのことを考えているのか。どの方向を向いて町政を考えているのか疑問をもつ。考え直してください。説明会は人が集まる所で反対意見も紹介してほしい</p> <p>児童数の減少、老朽化に伴う諸問題(コスト増、耐震性等)の打開案として小学校を各地区1校化することへの意義があることは理解ができ、方向性には賛同します。</p> <p>町長へどうして毛呂山町で小中一貫校をやらなくてはと考えているのですか？ 今の段階では毛呂山町で環境問題、少子化、自然との調和等理想的です。 やらなくてはよい条件です。 町長がやりたいと言う考えで動いている様に思われます。子供達の事、毛呂山の将来を考えてみてください。</p> <p>前回の広聴会、昨年のあり方検討委員会、パブリックコメント、意見がまったく反映されていない</p> <p>保護者、住民に対してきちんと説明し意見を聞いて進めるべきである。 広報で説明会についてのお知らせはあったが説明会に出席しないと具体的な事はわからない。しかし説明会に参加した方は全部で200人程度。これではほとんどの方が知らないに等しい。町の将来にかかわる事なので広報と同じように全町民に配布し知らせ同時に良いかどうかの意見をきくべきである。それをしないで町民無視で進めることは許されないと思う。3月末に策定するのではなくある程度の期間を設けていねいに進めるべきである。</p> <p>編成に納得出来る理由が見出せない為反対します。 1月28日日曜日毛呂山小、光山小で開催された説明会に参加しました。 この計画は教育委員会の方が纏めたものであっても各会場にこの町の最高責任者である町長が出席して住民の意見を聞くべきではなかったでしょうか。 教育委員会教育総務に丸投げ感が否めず非常に残念でした。</p> <p>児童ひとりひとりの個性が大事にされておらず集約されて教師も減少してフォローも手薄になるのが簡単に想像出来ません。何か問題が起きた時行政側でどの様な対応されるのでしょうか。全部現場（教師）に責任負わせるのでしょうか。そもそも施設一体型小中一貫校は議会で質問されてもずっと隠されていました。それからきちんとした住民説明会がほぼなく進められて騙し討ちとしか思えません。住民の財産である公共施設を勝手に決めるなど怒りがおさまりません。以前の署名も3000筆以上あった事も無視するおつもりなのでしょうか。出席した毛呂山小、光山小で様々な質問意見が出されました。町長だけでなく賛成反対の意見に拘らず町議のみなさんにも出席して住民の考えに耳を傾けてほしかったです。午前午後通して私が思ったのは、この計画で誰が幸せになるのだろうか？です。本音を言えば説明会の行政側の方々も少し気の毒でした。今までのまま編成などなければ日曜日のんびり身体休めたり、ビール呑みながらテレビを観たりとか出来るし私たちも貴重な時間を有効に使えるのに。本当誰が幸せになるのだろうか。光山小はこれから体育館にエアコンつけるのですよね。 災害の時私の居住地は避難場所は光山小です。説明会ですぐなくなるわけではないとの事でしたが代替案は示されませんでした。本当に不安です。能登の災害を今まだ私たちはテレビなどを通してですが日々目撃し続けているのです。我が身に降りかかったらどうなるのだろうか。避難場所が学校であればもし感染症などが広がりそうな時教室で分けて過ごす事も可能です。昔は100年に一度のパンデミックが近年スパンが短くなりつつあります。まだ流行っているコロナで終わりではないです。その時この編成計画で子供や住民を守る事ができますか。 もっと色々書きたい事もありますが このまま編成（案）を進めるのは納得出来ないのでやめてください。</p>	<p>近年の少子高齢化、核家族化、共働き世帯の増加など社会全体が急速に変化するなか、少子化に伴う学校運営上の課題が顕在化しております。また、学校施設においても建築後50年後が経過して施設の老朽化対策も喫緊の課題となっているところ。こうしたなか教育委員会では平成25年度から有識者などを集めた委員会などで検討を重ね、さまざまな方の意見を聞きながら現在の毛呂山町立小・中学校編成計画（案）を作成して説明会を開催したところです。</p> <p>児童生徒にとってより良い教育環境となるよう計画を進めてまいります。</p> <p>毛呂山町立小・中学校編成計画（案）は教育委員会で作成し、町の政策決定をいただいたものとなっております。教育委員会と町で協力してより良い学校としてまいります。</p>
	<p>総務省が平成30年2月27日に各都道府県市区町村あてに「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針の改訂について」（総財務第28号）を発し、国はインフラ長寿命計画として「新しく造る」から「賢く使う」に方針転換した。更に、文部科学省のインフラ長寿命計画（令和3年3月）の「見直し部分」には、「人口減少や厳しい財政状況が続く中、学校の適正規模・適正配置や他施設との複合化の検討に加え、整備・運営に民間の資金等の活用を検討」とある。これに反して毛呂山町は、他施設との複合化も、民間の資金等の活用も、検討していない。</p> <p>毛呂山町の小中一貫校計画は、平成30年に策定された「未来を拓く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト」に基づいて進められている。このプロジェクトは、平成28年から29年にかけて開かれた「毛呂山町 学校教育環境等 検討委員会」の検討結果を踏まえて策定された。その検討委員会で、前教育長が、次のとおり意見した。</p> <p>「小中一貫校をつくることによって、まちづくりといったビジョンを一番早く実現できる。ビジョンを達成する方策として小中一貫校がある。毛呂山町の持っている特徴や資源を最大限に活かして全国に発信していく学校です。ここの最大の資源は埼玉医科大学ですので、学校教育に活用できないか考えています。学習指導要領とは別に、保健学習に埼玉医科大学の教員に来てもらって、9年間を通して福祉や健康や医学の基礎を身につけさせる学校をつくりたいと思います。小中9年間を通して医者をつくる学校といった大きなビジョンを持って、学校をつくれたら良いと考えています。」という個人的な考えを意見した。この小中一貫校だと、町立の小学校で、1年生が、小学校教員免許を持たない埼玉医大の教員から、学習指導要領に則らない保健学習の授業を受けることになる。大問題である。しかも、義務教育の段階で職業選択の自由を制限されており、憲法22条に違反するプロジェクトである。</p> <p>違憲性・違法性ある小中一貫校計画は中止すべきである。</p> <p>編成計画策定までの経過等当事者である「子どもたち」の保護者からアンケートを取らない事が残念だ。住民説明会で、「A町長ならアンケートをとるのに、B町長だとアンケートを取らないのは、器量の問題だ」と意見が出たら、教育長がハッと、目が開いて、背筋が伸びた。だから、アンケートを取るだろうと期待したが、「教員上がりにはできない」というC議員の言ったとおりの結果になった。</p> <p>毛呂山町長が小中一貫教育に執念をもっていることはよく知られているところである。先の町長選挙の結果は投票率48.8%町長への投票は有権者数の21.8%である。つまり、住民の過半数を割っての当選であり、この町長についていくという民意とはいいがたいものがある。従って町長宣言ありきではない。</p> <p>教育評論家Dが「小中一貫校」に異議を申し立てています。「公立の小中一貫校に対して、注意する必要がある。何よりも新しい挑戦ではなく、体のよい「学校統廃合」政策に過ぎない」と。私も5年越しで、やっと毛呂山町の進める小中一貫校の本音が分かった。</p>	

	<p>毛呂山町の「学校統廃合」は急ぎ過ぎている。一度、立ち止まり「毛呂山の子どもたち、教育のこと、町の将来を考えて」、学校編成計画(案)を確立すべきだ!</p> <p>町民の皆さんがどれだけ、毛呂山町立小中学校編成計画(案)を理解し、支持しているだろうか。住民説明会の参加状況を見る限り、ほとんどの方が知らないと思う。町は、住民合意をしっかりと確認すべきで、これだけ重要な学校統廃合を見切り発車すべきではない。</p> <p>私は今、とても心配しています。毛呂山町の子どもたちのこと、そして毛呂山町の未来のことです。今回の計画は、もともと学校現場から要望が出たのではない。町民から出たのでもない。教育委員会から出たのでもない。現場の教職員に言わせれば「我々は毎日子どもたちの健全な成長をめざして、一所懸命仕事をしている。それなのに突然、小中一貫教育のために、施設一体型の小中一貫校と隣接型の小中一体型の小中一貫校を造るといふ。一体なにをさせようというのか。」ということだと思います。</p> <p>毛呂山町は現在6つの小中学校で落ち着いたゆとりの環境で、教育活動が行われています。それは回覧板で回ってくる学校だよりを読んでよく伝わってきます。地域の子どもたちや保護者に聴いてもわかります。国が公共の施設を40年間で、25%削減することを自治体に求めているということを知りました。毛呂山町は真っ先に学校を狙って「小中一貫校」の名を借りて強引に「学校統廃合」を進めようというのでしょうか。</p> <p>町長の独断でこの計画を進めていいものなのでしょうか。町長は能登半島地震のニュースで、すべての小中学校が避難所として、住民のいのちと暮らしを守っていることをしらないのでしょうか。学校は使っているからこそ災害時の避難場所として使えと、新聞やテレビでも報道されています。川角小学校と光山小学校を廃校にして、川角中学校に統合するという説明を聴きました。教室が足りないから校庭に1年から4年までの新校舎を建てる計画には唖然としました。「子どもの数が減るから統合する」というのはウソなんです。子どもの気持ちになれば、いわゆるゆとりのある学校から窮屈な学校に移動させられるのはむごいことです。去年、川角小学校は創立150周年を祝う記念式典を行いました。たくさんの卒業生一人一人にとって思い出深い学校です。光山小も泉野小も同じです。品川区のことも説明会の時、参加者から聞きました。ネットニュースでも確認しました。電話で品川の教育委員会に聴いたら、一貫校になっていじめで3人の中学生が自殺しているのです。事実でした。せっかく生まれた命を奪う権利は誰にもありません。町長と教育委員会に、この計画の撤回を求めます。</p>	
<p>通学について</p>	<p>通学時間に関してです。統合案には上記通り賛成できる点がたくさんありますが、児童の通学に関する十分な討議および環境整備がされてから計画を進めていただきたいと感じました。今の校数でさえ、田舎部は通学に苦勞(保護者による送り迎え、児童での長距離通学)が発生しております。毛呂山小学区ではあまり変化はないですが、泉野小学区では相当な不便を被る世帯(目白台など)が増えるかと思えます。教育面だけでなく小学生による3キロ以上の通学になる地域の増加により、子育て環境の悪化による人口流出、流入の妨げとなり町全体の問題であると考えます。抜かりなく議論をされているところかとは思いますが、児童教育および毛呂山町の恒久的な発展のため1軒1軒の世帯に目を向け、くれぐれも環境整備が後付けにならないようお願いいたします。よろしくお願いたします。</p>	<p>毛呂山町立小・中学校編成計画(案)では3km以上の行政区に対してスクールバスを導入し通学に対する不安を解消していきます。また開校にむけ統合準備委員会や部会を開催し通学路や通学方法等の詳細を検討決定し報告してまいります。</p>
<p>施設について</p>	<p>施設一体型と施設隣接型を比較すると、隣接型は今まで通りの使用が可能であるが、一体型では1つのグラウンド及び屋内運動場を小・中学校の9学年が使用することとなります。</p> <p>施設利用方法の説明では、曜日分けやネットフェンス等の設置で区画分割する手法を検討するとあります。しかし、児童も高学年になると運動量も多くなってきます。そのようななかで、小学生と中学生が同時に使用する場合を考えると、ネット等で区画しただけで十分な活動ができるのか疑問です。</p> <p>双方の利用方法を比較した場合、多少の差がでるのはやむを得ないと考えますが、現状では差があります。</p> <p>令和11年度に一貫校となった後も、小、中学生がおもいきり生きいきと動きまわられる学校施設であってほしいと思います。</p> <p>川角中学校の校庭に小学校1～4年生の校舎を14億もかけて作ることに大反対です。中学校の中に小学生をはいれる事ができてからでよいのではと思います。</p> <p>統廃合により成長発達の違う子ども達と同じ施設、環境で生活することは規制ばかり多くなり子ども先生のストレスが増える</p> <p>川角中の校庭が広いなら小学校4年生までの校舎も他の校舎と同じように南向きの校舎を建てるべきである。太陽の光の入らない校舎は小さい子の健康を損なう。又遊具なども今の学校のように校庭の周りに設置し、昼休みや放課後も中学生と小学生がそれぞれのびのびと運動できる広さの校庭を確保すべきである。それができない現在の川角中学校の敷地では中学生も小学生も学生生活が楽しめないと思う。思いっきり部活をしたり、友だちと遊ぶ事が児童生徒の一番の楽しみなのだから。5、6年生が中学校校舎で学ぶ事についても最上級生としての自覚や経験を持ちにくいと、自己肯定感やリーダーシップが育ちにくいという調査結果もある。低学年と切り離されてしまったら5、6年生が今まで通りの高学年の活動ができるか疑問である。身体も心も大きくちがう小学生と中学生をひとつの施設で教育する施設一体型は小学生にとってよりマイナス面が大きいと思われる。</p> <p>文部科学省のインフラ長寿命化計画の改訂(赤字部分)に、「整備に民間の資金を活用」とある。これを受けて、小中一貫校計画に係る校舎の増改築等すべての費用を埼玉医大の負担とするよう、町から埼玉医大に対し要求すべきである。</p> <p>「民間企業が行政に口を出すなら、まず金を出せ」ということである。</p> <p>川角駅の南側に「学園口」ができる過程で城西大学の寄付があった。同じ民間の大学であるのに差が出ている。金を出さない大学が恥をかく。</p> <p>学校の老朽化の説明についてはまだまだ使えんと思えます使えないと思ったら使えなくなってしまう。大切な財産ですので創意工夫で頭を絞って下さい、それが公務員だと思います。</p> <p>川角中学校敷地内の小学校増設(増築)工事だが、東向きだと聞くがこれは慎重に、避けるべきと考える。また、小学生用のプールはどうなるのか。その他、不安だらけである。</p>	<p>学校施設は建築後50年前後が経過しており、大規模改修が必要な時期となっております。教育委員会では、少子化や施設の老朽化を踏まえて検討を重ねて、児童生徒が切磋琢磨できる学校環境や6校全てを存続する場合の将来世代の財政負担を考慮した結果、毛呂山町立小・中学校編成計画(案)のように中学校区で小中一貫校を設置することといたしました。</p> <p>新たに建築を行う川角小学校校舎については、採光や断熱性など工夫を行い、児童生徒が快適に学校生活が送れるよう工夫してまいります。また、校庭の利用についても小学生と中学生がのびのび運動や活動ができるよう工夫してまいります。</p>
<p>財政について</p>	<p>財政難を理由に統廃合するのであれば14億円は矛盾している。助成金を使っても残りは借金であり若い人につけが回る。</p> <p>財政難と言いながら無駄金が役場の外壁に使われている。教育という必要なお金を使うべきです。</p> <p>町税の無駄遣い(耐震補強工事、エアコン工事)。</p> <p>編成計画による校舎の増設etc→全て無計画で町民不在の町政。</p> <p>先日毛呂山町小学校で開かれて説明会に参加させて頂きました。</p> <p>学校が無くなる事ってとても重大な事です。毛呂山町の財産で私達の税金で建てた物で国からの補助金も私達の税金です。</p>	<p>将来の毛呂山町に最適な形で学校編成を行い、財政的負担の軽減を図りつつ、より良い学校環境を整備してまいります。</p>

<p>児童生徒数・教職員数について</p>	<p>子どもの数は減少しているが近隣で一番多いし今統廃合する必要はない。</p> <p>統廃合すると児童数は増えるのに教職員が減る。これでは様々な場面で児童に目が届かない少人数が良いです。</p> <p>教職員30名(校医を含む)の削減→不登校児童や学力、体力向上に影響。</p> <p>子どもたちにとって環境が悪化する。小学校2校が統合すると児童数は約2倍になる。しかし、教職員数は1校分まるごと(15~16人)が減り、増えたとしても2~3人程度になる。学校では、教職員全体で子どもたちを見守っている。統合後の学校では、統合前よりも半分の人数で見守らなくてはならない。子どもたちに目が届きにくくなる。又毛呂山小では1クラス当たり児童が8人増えることになる。登下校を含めた様々な場面で今までの生活と異なり児童への負担が大きくなると思う。</p> <p>学校として教員が増えるので校務分掌は減るとの事だが小規模校にはそれなりの工夫した働き方があり人数が少ないからといって仕事が2倍になるわけではない。むしろ教員の本文は児童と向き合う事であり児童の人数が少ない程学校生活全般において目も手もかけられる。統合する事により児童数の増加だけでなく新し学校づくり、中学校との交流まで行うとなると教員たちの仕事が大きく増えることが予想される。今でさえ厳しい働き方なのにこれ以上強化されると現場の負担がおおきくなる。</p> <p>子どもが少ないのなら一人一人の個性を尊重できる少人数のクラスで学校生活を過ごしてほしい。もっとお互いの意見を言える議論の出来る学生生活を送ってほしい。</p> <p>説明の中で子どもの基本定数のお話しや複数学級の話がありましたが、それっていい事ですか。</p> <p>今の子どもに多くみられる愛着障害、保育園などではとても問題になっています。</p> <p>今の学校にまず求められる事は子ども一人ひとりに向き合える職員です、認められ大切にされる経験をたくさんして大人に育っていく、その過程で特に中学生までが大事ではと思っています。</p> <p>少人数での学びは、友だちの事や学習面またクラス運営等多くの事をしっかり学べるとしています。</p> <p>教育予算の削減に主目的が置かれ(当初は増額)、子どもたちのための教育条件の充実ではなく、逆に学校現場から教職員30名(県費16名、町費14名)が削減される。児童生徒の健康を見守る校医・薬剤師は10名減少する。子どもたち・町の将来のためにも、小学校4校を存続させるべきだ。</p> <p>世界の小学校は100人規模の学校が標準だ。なぜなのだろうか、ここに多くのヒントがあると思う。それに比べ、まだ毛呂山町は2~3倍の児童数だ。これから「小中一貫教育」を進めると豪語しているが事の本質を町は「理解」していないのだろう。</p> <p>以下のグラフは出生率を表しています。ご存じの通り日本は人口置換水準を下回り、次世代は自然に人口減少が起きるといふ負のスパイラルが起きています。ですから、今後も少子化は止まらないでしょう。</p>  <p>生れる子は少なく、生れてきた子の多くに支援が必要であると統計は示しています。話が変わりますが、越生中学校は1クラス25人以下の3クラスです本来であれば80人に満たないですから2クラスのはずです。1クラス25人は理想の人数です。越生町は毛呂山町より財政的には厳しいのではないかと思います、越生町が何故このような取り組みをされているかは伺ってはいません。ですがいえる事は、学業の点で言えばかなり良い結果が出ています。又生徒達が生き生きとしています、少子化と障害児の増加は連動していますので、負のスパイラルは続くでしょう、このことでは危機感を持っています。越生町と比較すると教育に欠ける費用は小学校において三分の一、中学校では四分の一にしかありません、更に教育かける経費の削減を考えているのは時代錯誤も甚だしいと思います。毛呂山町の将来世代への危機感からこの計画に反対します。</p>	<p>毛呂山町の小学校において、少子化の影響によりクラス替えができない単学級が増えてきている状況です。しかしながら、1クラスあたりの人数は30人以上となっており、将来的な推計値においても各学校で単学級となるなかで、1クラスあたりの人数は30人以上となるクラスが存在します。1学年で1クラスに基本的に1人の学級担任がつくことになり、複数クラスがある場合と比較しても教員負担は大きいものとなってしまいます。</p> <p>学校規模は小さくなくても、教職員の配当基準と照らし合わせて少人数学級とはならない場合もあり、学校の小規模化が少人数学級になることではなく、現在も、複数クラスある学年で1クラス的人数が30以下のクラスが多く存在します。今後も町費支援員の配置を工夫して児童生徒の教育環境の充実に努めてまいります。</p>
<p>他の自治体の取り組みについて</p>	<p>つくば市の小中一貫校では、子どものストレスから空屋に放火、品川の小中一貫校ではいじめから自殺者が三人これらの事件から小中一貫校にするのは問題ありきで行政が真剣に考えるべきことなのに町は先走って小中一貫校を押しつけている</p> <p>小規模校・少人数学級は「学力が上がる」「1人1人に目が届く」というメリットがある。単学級にならないために統合しても少子化が進めば又単学級になる可能性もある。保護者も単学級を心配している声が多い。岐阜県山県市では統合しないでスクールバスを使って他校との交流授業を進める山県方式を行っている。体育、音楽等の多人数の方が良い教科で合同で行い、子どもたちも友だちが増えてうれしいと評判は良いそうである。他にも中学校の合同部活、幼稚園、保育園との交流も行われている。単学級だからダメなのではなく、メリットを生かしてデメリットを克服できるような方法を探していくべきである。統廃合ありきではなく、役場、議会、住民の知恵を集めて毛呂山町ならではの方法で子どもたちにとって良い環境を目ざすべきであると考えます。</p> <p>町は身近な他市町、特に越生、鳩山の小学校からも多くを学ぶ必要がある。地域のがんばる町づくり、学校づくりがある。町はどう参考にしているのか。</p> <p>東京都品川区では3階建ての校舎を建て統合しました。ですが現在、統合は失敗であったと3階建ての校舎の中で小学校と中学校に分かれ別の学校として運営しています。そこで、何が失敗であったかをよく調査していただき、その失敗を毛呂山ではしないようにして頂きたいと思います。避けられない事であれば撤退があってもいいと思います。それが子供にとって良い事なのかという点です、幼児期を脱したばかりの小学校低学年と思春期を迎えた難しい年頃の中学生が一つの学校で大丈夫でしょうか。</p>	<p>他の自治体の取り組みを参考としながら、毛呂山町にとって最良の形を検討した結果が、毛呂山町立小・中学校編成計画(案)でお示ししたのとなっております。</p>

<p>不登校について</p>	<p>毛呂山に不登校の子がなぜ増えるのか？子どもは幸せになるために学校に来るのに学校に居場所がない、おざなりにしていませんか？子どもの心の叫びを聞いていますか。未来を拓く人づくりプロジェクトの文言はしらじらしく無意味に聞こえます。小中一貫校は、不登校問題を解決してから二の次です。</p> <p>説明会の質疑で参加者にも指摘されていましたがネットで検索すると文科省国立教育政策研究所が作成した資料がすぐ見つかります。</p> <p>「中1ギャップの真実」内に記載されていますが【中1ギャップの存在を实体として議論をすすめるのは危険と言えます】とされています。</p> <p>毛呂山町の行政は文科省の資料を全力で無視するおつもりなのでしょうが。</p> <p>この計画（案）を突き進んで問題なく過ごせる児童もいるでしょうけれど、不登校児はどうなるのですか。現在も増えている状態です。置いてけぼりのまま存在しない者と扱われてしまうのではないかと非常に危惧しております。</p> <p>小学校から中学校へのスムーズな移行とはどのように理解されておられるのか。貴方認識は中一ギャップ解消を解消することとある。中一ギャップの発生を、小中一貫校が物理的あるいは地理的に別の場所にあることと想定していると考えられるが、義務教育とは国や政府、保護者などが子どもに受けさせなければならない教育のことであり、教育行政にあってはより登校しやすい環境を提供することではないか。例えば地方においては分校を設立し、生徒に少しでも負担が少なくなるように配慮しているのがそれである。</p> <p>さらに、中学校段階での学習のつまづきや不登校解消を図るとあるが、それらへの対応は多くのNPOや私塾が取り組んでいるところで、市や町の教育行政の不足しているところを補っている。一方「不登校児童生徒の支援在りかたについて」の文科省の通知にあるように、基本は個々児童生徒の状況に合わせた支援をすることであり、その中では在宅ではITを活用した教育案も示されている。そのような状況の中で、小中一貫により問題が解消されるとの説明はあまりにも大雑把な論の展開で説得力に乏しい。また、文科省も同様の見解を示していることに対しては、不登校が減少するのにか否かは貴委員会が担当地域について独自の調査、精査をすることが必要と考える。</p> <p>毛呂山町の不登校児童・生徒数は10年前13名から、今年度は58名と約5倍に増えている。問題なのは全国の新聞報道だが、約4割近くの不登校児童生徒が「相談や支援」を受けられていない状況が分かった。いま学校は、一人でも多く先生が必要だ。ところが毛呂山町は、逆に学校統廃合で人為的に16名の県費の先生を削減しようとしている。いかに教育力、教育環境が低下するかが分かる。</p>	<p>本町の不登校児童生徒数は増加傾向にあり、教育委員会としても学校と連携して改善に向けて取り組みを行っているところです。文科省国立教育政策研究所が作成した生徒指導リーフ「中1ギャップの真実」にあるように中学校で顕在化する問題も、実は小学校からと捉え、小中連携だけでなく、校区内の小中連携も含めて不登校やいじめという共通の課題に取り組んでいます。小中一貫校とすることで、小学校と中学校の教職員が連携することで小学校からの連続性に着目し、中学校での問題を解消してまいります。</p>
<p>避難所について</p>	<p>毎年自然災害が発生しています。避難場所は近くにあるべき遠くにあっては意味がない小学校は残すべきです。</p> <p>今までは災害が少なかった所ですがこれからは何があるが解りません。避難所としても大切な学校です。</p> <p>毛呂山町防災マップによれば例えば総合体館付近には土砂危険渓流があったり、また総合体体育館のグラウンドは大水が出たとき、災害時貯水機能を持たせたりして備えている。</p> <p>同様に小学校・中学校の建物は災害時の緊急避難設備に利用できる。このたびの能登半島地震を見ても、避難施設がいかに重要か改めて知ったところであり、校舎は老朽化ということばで捨てるのではなく、予想外の自然災害に備えて避難施設として利用できるように備えるべきである。貴委員会から町に提案していただきたい。他の方からもこのような提案を聞いているが「画期的発想」と思う。また、建物に余裕ができるなら、様々な利用が考えられる、それらは想像力豊かな児童・生徒の考えを採用することを提案したい。</p>	<p>避難所として指定している体育館については、統廃合後も利活用を予定しております。体育施設として日常的に利用することで、災害時においても適切に利用できると考えております。</p>
<p>跡地利用について</p>	<p>旧毛呂山高校と同様の廃墟が増加将来像の未解決→（現状の先送り町政）</p>	<p>町の施設の統廃合後は検討委員会等において跡地の有効活用を検討してまいります。</p>
<p>教育課程について</p>	<p>地域の学校は低学年時、5、6年生のお子さん、お姉さんを見ながら成長し自分達が高学年になった時に今度は1、2年生など低学年の面倒を見ることによって更に成長する大切な時期なのです。その大切な時期を守ってください。自分たちもそうやって育ってきたのです。地域で子育て将来の毛呂山町の為にも大切なのです。</p> <p>さて、以下のグラフを見て下さい、全国平均です。データ元は文科省です。</p>  <p>毛呂山町内の小学校でも発達障害と思われる児童が見受けられます、また、身体的に大きな障がいを持った児童もいます。このグラフにありますようなデータが毛呂山町に存在するかは存じませんが毛呂山町内も例外ではないでしょう。この様に多くの子に支援学校が必要です。丁寧に育てる事で自立することができます。発達障害や多動性の子供といえども素晴らしい能力を持った子もいます、例えば、国語の学習はダメで多動だけれど数学になるとまるで天才かと思うほどひらめくといった具合です。</p> <p>大勢の中では多動の子への対応は難しいです。少人数であればこの子に合った対応ができたと思います。少子化の中で障がいのある子も持っている優れた分野で自立でき社会を支えられるように育てなければならないと考えます。その為には子供一人ひとりに向き合った教育がなされなければならないかと思えます。</p> <p>子どもが変わってきています。従来型の大勢を一人の先生が授業をする形式では対応できなくなっていると思います。障がいを個性として見られるような教育へと変化していかなければならないところへ来ていていると感じています。その為の政策であってほしいと思います。</p> <p>以下のグラフは2021年版の子供資料年鑑に出ていたものです幼稚園・保育所で支援を必要とする園児が急激に増えていきます、2018年国公立の幼稚園の在園児の92.9%に支援が必要であったと出ています。</p> 	<p>小学校高学年の高学年としての児童の育成はこれまで通り行ってまいります。また、障がいを持った児童生徒も発達に合わせて、より良い学校生活となるよう教育をすすめてまいります。</p>

<p>学力・体力について</p>	<p>毛呂山町では既に小中一貫校教育を開始しているが、埼玉県公立小中学校（令和4年度）学力ランキングの結果は、63市町村で毛呂山町は、中学校は61位で、小学校は62位である。少人数学級の越生町は、中学校は9位で、小学校は48位である。したがって、小中一貫教育にすると学力が向上するという当町教育委員会の説明は間違っている。</p> <p>学力・体力とも不利!学校統廃合に良いことはない。計画案には「小中一貫教育が目指すもの」として学力や体力の向上を図る、とある。しかし学校統廃合で1クラス当たりの児童・生徒数は増加する。正に少人数学級に逆行する。その上、毎日の徒歩通学がバス通学では自然豊かな毛呂山町の自然を体感する道草もできず、体力の低下は目に見えている。</p>	<p>学力・体力については、小学校と中学校が連携した小中一貫教育を進めることで、9年間を通して児童生徒の育成を図り、それぞれの児童生徒が自分自身の成長を実感できるような学校環境を整備してまいります。</p>
<p>小中一貫教育について</p>	<p>小中一貫でなくとも、戦後6・3・3・4制度が施行されて以来、教育行政にあっては絶えず小・中学校9年を通して9年間の見通しを持ち、連続性のある活動を展開すべく邁進されてきたのが教育に携わってこられた諸先輩であったのではないのでしょうか。当然その中で学力や体力の向上も図られてきたと認識しています。小中一貫にしなれば、それらが達成できなくなった、あるいは何か欠陥があるとの指摘をされたいのであれば明確に根拠を示していただきたい。</p> <p>その場合資料の前段にある人口減少や少子化は、小中一貫教育の理由にするのではなく、そうした状況下で現状を維持するには如何にすべきかの資料とすべきものと考えます。</p> <p>小・中学校教職員の相互理解のための合同研修会の実施については、週1日の「ノー部活デー」の利用などもあるし、様々な通信手段が発達し利用できる昨今の状況では、あらゆる手段を活用した連携の仕方がある。世間でも一般的に物理的に同じ場所に集まることができない場合は他の手段の助けを借りて目的を達成している。小中学校一貫のメリットにするのは無理がある。論点が違うというべきことである。</p> <p>今までで述べてきたように、小・中学校の連携は義務教育も制度下におけるもっと必要な課題の一つで、貴委員会でも率先して牽引してきた課題であると思う。それは果たして小中一貫でなければならないことなのか。</p> <p>小・中学生の交流や合同行事は、例えば小学生の子どもを持つ家庭と中学生を持つ家庭があったとして、それらを開催する場合は双方で話し合っ決めて実行する性質のもので、両家庭が同じ敷地内や屋根の下でなければならないということはない。肝心なのは双方で理解を深めようとする教育の理念(教育の目的、教育基本法第一条)ではないのか。下級生に対する思いやり、リーダーシップ目標にすべき生徒像の具象化も、たとえば離れている何軒かの家庭を想像することにより、教育に何が求められているのか、本来やるべきことが何か見えてくるのではないのか。</p> <p>貴委員会の説明資料の「導人の主なねらい」に欠けているのは、教育の理念を念頭に置いた視点が弱いことであり、それはメリットばかりを羅列して、デメリットを挙げていないことに端的に表れている。他の教育委員会の説明資料と比べればわかることで、デメリットも当然貴委員会も把握されていると思う。メリットだけを並べて説明しようとする姿勢は住民を見る目の位置が高すぎるからではないかと懸念している。</p> <p>貴委員会には教育行政に携わる組織としての矜持と毛呂山町住民の尊重の視点についてもう一度点検してほしい。</p>	<p>急速な社会の変化、価値観の多様化、情報化、少子高齢化、核家族化等により、子供達を取り巻く教育環境は大きく変化しています。また、家庭や地域社会の教育力の低下、体験の減少等の中、子供の自尊感情の乏しさ、基本的な生活習慣の未確立、規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下などが指摘されています。学校現場では、いじめ・不登校等の問題行動の増加とともに、「小1プロブレム」「中1ギャップ」等の問題も生じています。</p> <p>これらは、時代や社会の変化、子供の身体的成長の早熟化、心と身体の成長のアンバランスに起因するとともに、かねてから指摘されてきた小学校と中学校の指導の段差、小学校と中学校の教員が9年間を見通して児童生徒を育てるという視点の欠如等、学校種間の連続・接続のあり方についても課題があると考えられます。</p> <p>毛呂山町では、「小・中学校における互いの教育活動への理解促進と9年間を見通した連携」を目標に掲げ、小学校、中学校の教職員が連携を図ってまいりました。その結果、小学校から中学校へのスムーズな接続、学力・体力の向上に向けた研修会の定着など一定の成果を得ています。しかし、学力、特に主体的に学習に取り組む態度や思考力・判断力・表現力等が十分に育っていないこと、また、不登校出現率が依然として高いこと、基本的な生活習慣が十分に身につけていないことなど、学校・家庭・地域が連携して取り組むべき課題も残されています。</p> <p>このような教育課題の解決に向け、現在、毛呂山町教育委員会では、小中9年間という見通しをもって教育活動を展開するために、町内全2中学校区で小中一貫教育を実施しています。今後も中学校区において学校・家庭・地域が一体となって児童生徒の育成を図ってまいります。</p>